

2025

1

No. 741

## 國學院大學学报

「冬の光り」  
みなぎらふ冬の光りの  
書深く  
あたゝまりなし。  
子らの鳥膚  
『倭をぐな』  
釈 迢空



国学院大学

令和7年1月20日(月)

定期号(毎月20日発行) 1部20円

[発行] 国学院大学 [編集] 総合企画部広報課 〒150-8440 東京都渋谷区東四丁目10-28 [電話] 03(5466)0130 [FAX] 03(5466)0528

祭 儀

■ 月次祭

2月1日(土) 午前10時 仮殿

■ 建国記念祭

2月11日(火・祝) 午前11時 仮殿

■ 天長祭

2月23日(日・祝) 午前11時 仮殿

研究  
者に  
聞く通史的に国学を見通し、  
日本の総合知に迫る

神道文化学部・松本久史教授

新たな可能性が秘められた、未知の学問。国学をそんな発想で捉え直そうとしているのが、松本久史・神道文化学部教授だ。凝り固まった国学像を解きほぐし、既に定められた思想の解釈に終始するのではない道を模索する松本教授は言う、国学は「終わった」学問ではない、と。

総合知としてのポテンシャルを秘めた、いまだ完全には知られざる国学のありよう。そのダイナミズムについて、そして神道学との二本柱で研究を進め、その内に秘められた多様な可能性へと目を開き、世界の豊饒さに気付いていく自身の歩みの道筋について語ってもらった。その語りはやがて、星が公転するように、アップデートされゆく国学の姿へと、再び回帰するだろう。

4・5面に関連記事

## 歳旦祭を斎行



歳旦祭(斎主〓星野光樹・神道文化学部准教授、神殿奉斎員)が1月1日、国学院大学渋谷キャンパスで執り行われた。祭典には、佐柳正三理事長〓写真、針本正行学長をはじめ、法人・各設置校の役教職員、来賓らが参列。斎主が祝詞を奏上し、本年の平安と法人の隆盛を祈念した。

祭典終了後、あいさつに立った佐柳理事長は「少子化という厳しい環境を乗り越えるため、『オール国学院』で一丸となって中期5ヵ年計画を着実に実行していきたい」と述べた。続いて、針本学長は「生成AIによる急激な社会変化の中でその回答を批判的に受け止められるよう人材育成に取り組み、学生一人一人の思いに寄り添いながら大学の見直しを行っていきたい」とあいさつした。

み  
はるかすもの

年が明けた。令和7年の干支は「向上心を持つて努力を重ね、物事を安定させていく」という意味合いを持つ「乙巳」である。▼昨年は学生、特に運動系部会の活躍が目覚ましい年であったので、今年も継続して研鑽を重ねていくことを、まずは期待したい。▼また、今年の秋には日本で初めてとなる「東京2025デフリンピック」の開催が予定されている。デフリンピックは「耳がきこえない、きこえにくい人のためのオリンピック」であるが、東京で開催されたオリンピック・パラリンピックと同様に、世界各国から出場する選手・役員ばかりで

なく、開催に向けて尽力する関係者の努力が、世界の共生社会の形成に向けた人材育成への大きな契機になることも期待したい。▼さらに、乙巳は「蛇のように再生や変化を繰り返しながら、柔軟にかつ着実に進化し続ける」年とも言われている。今日の大学においては、少子化問題だけではなく、社会の多様性をはじめとして、加速する世の中の変化への対応を急がなければならぬ課題が山積している。こうした諸課題に対して、柔軟かつ着実に対応できるよう、力を合わせてしっかりと取り組んでいきたい。▼そして、スポーツ活動ばかりでなく、文化活動においても、固定観念にとらわれずに新しい考え方や方法を積極的に取り入れることで、「成長」や「変革」を成し遂げる一年になることを願うものである。

箱根駅伝総合3位  
監督・選手コメントK:DNA  
I・II面

主な内容 2面／年頭所感 3面／令和6年度 国際研究フォーラム開催 変容する伝統宗教文化を多面的に議論

4・5面／「総合知」としての国学の全貌 ―「人文知」を超えて 6面／経済学部生が学内外で課題解決策を提案

最終面から K:DNA I面／陸上競技部 箱根駅伝 総合3位「全員駅伝」で過去最高順位タイ II面／モーターボート水上スキー部 インカレ大会 男子ジャンプ団体優勝、総合3位



## 年頭所感



### オール国学院で「強い組織」を実現

理事長 佐柳 正三

令和7年の新春を迎え、謹んで御祝詞を申し上げます。

顧みますと昨年は、大学は創立142周年を迎え、ソフトテニス部の女子がダブルスで全国2連覇、陸上競技部が出雲駅伝と全日本大学駅伝で優勝し大学三大駅伝2冠の快挙を遂げるなど、部員一丸となって目標を目指し「強い組織」づくりに成功した部会が目覚ましい活躍を魅せた一年でありました。また、法人傘下の教育機関においては、国学院大学久我山中学高等学校が創立80周年、国学院幼稚園が55周年を迎えることができました。これもひとえに関係各位のご支援のおかげと感謝しております。引き続き、本法人の

教育理念にご賛同くださる多くの方々のご支援を得ながら、学生生徒園児らが安心して学べる学園づくりに取り組んでまいりたいと思います。

さて、創立140周年記念事業の一つである神殿造替と境内整備事業は、旧神殿のたまプラザキャンパスへの移築が昨年12月中旬に完了、渋谷の新殿も間もなく竣工する予定で、御祭神を新しい御殿にお遷しする本殿遷座祭を本年4月中旬に斎行する予定です。本学のシンボルである新しい神殿をぜひご参拝ください。

昨今の学校法人を取り巻く厳しい状況乗り越えてゆくためには、「強い組織」づくりを急

がねばなりません。そのためには、一人一人が中期計画における各組織のビジョンや目標を共有して、自分自身の役割をしっかりと理解し、自ら主体的に関わり、状況に応じた確かなコミニケーションを図りながら一丸となって取り組んでゆくことが重要です。私も役教職員は、「オール国学院」で「ONE FOR ALL、ALL FOR ONE」な組織を目指し邁進してまいりますので、更なるご支援ご鞭撻のほど心からお願ひ申し上げます。

本年が皆さまにとってより良い一年となりますようご祈念申し上げます。



### 豊かな学修環境、学修支援を

学長 針本 正行

あらたまの年を言祝ぎ申し上げます。

令和4年度に開設した「観光まちづくり学部」は、本年度で3年目を迎えました。現在も、全国各地で発生している自然災害は、地域社会の在り方、そこに生活をされている方の生き方にも大きな影響を与えています。このような時にあって、観光まちづくり学部が掲げる「地域を見つめ、地域を動かす」という持続可能な地域づくりを目指すテーマはとても重要です。この課題を具現化するために、現在、10を超える地域と「包括連携協定」を結び、研究交流や学生のフィールドワークの環境を整えています。今後も、地域との連携を積極的に進めていきます。

また、本学では、海外の大学とネットワークをつくり、本学の学びや日本の文化を再認識するとともに、留学先の大学で専門学術分野を外国語で学び、新たな視点やアプローチを習得することができるよう、海外の大学との学生交換を推進しています。令和6年度には、ノースウェストミズーリ州立大学（米国）およびル・アブル・ノルマンディ大学（仏国）との学生交換を開始しました。また、今年2月には、学生交換の枠組みを利用した短期留学グループをル・アブル・ノルマンディ大学に派遣します。

さらに、本学では、令和3年度から共通教育科目として「データサイエンス教育プログラム」を開設し、数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識と技術を提供しています。このプログラムは、政府の「AI戦略2019」に基づき、持続可能な社会を支える人材育成を目指しており、文部科学省からの認定も受けました。また、令和7年度は教学IRのシステム整備を本格化させ、学生の学修成果の可視化にも取り組み、学生一人一人の学びが充実したものとなるように努めてまいります。本年が、皆さまにとって、良い一年となりますことを心から祈念申し上げます。

さらに、本学では、令和3年度から共通教育科目として「データサイエンス教育プログラム」を開設し、数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識と技術を提供しています。このプログラムは、政府の「AI戦略2019」に基づき、持続可能な社会を支える人材育成を目指しており、文部科学省からの認定も受けました。また、令和7年度は教学IRのシステム整備を本格化させ、学生の学修成果の可視化にも取り組み、学生一人一人の学びが充実したものとなるように努めてまいります。本年が、皆さまにとって、良い一年となりますことを心から祈念申し上げます。

さらに、本学では、令和3年度から共通教育科目として「データサイエンス教育プログラム」を開設し、数理・データサイエンス・AIに関する基礎知識と技術を提供しています。このプログラムは、政府の「AI戦略2019」に基づき、持続可能な社会を支える人材育成を目指しており、文部科学省からの認定も受けました。また、令和7年度は教学IRのシステム整備を本格化させ、学生の学修成果の可視化にも取り組み、学生一人一人の学びが充実したものとなるように努めてまいります。本年が、皆さまにとって、良い一年となりますことを心から祈念申し上げます。



### 年頭コラム 今年の干支にちなんで

### 蛇のヌシ、守り神の蛇

文学部教授 伊藤龍平

奄美の田舎道を歩いていると、時折「用心棒」というハブ除けの棒を立てかけてあるのを目にする。この用心棒で足をたたきながら歩くとハブに咬まれないという。ハブは人を死に至らしめる猛毒を持つが、積

人に踏みつけられそうになった時に吃驚して反射的に咬みつくのだ。要は、ハブがいそうな場所には足を踏み入れなければいい。これはヌシ（主）と人の関係にも言えることである。

日本の河川沼沢にはヌシと呼ばれる。8世紀初頭の「常陸国風土記」には水田開発と堤防建設の際に二度にわたって人と夜刀神（角のある蛇の姿をしている）が衝突した話があり、ここにヌシ伝承のエッセンスがある。各地の伝承を見ていくと、ヌシへの対処法には、(1)退治する、(2)追放する、(3)封じ込める、(4)祀り上げる、(5)契約を交わす、(6)ヌシをヌシのまま利用する……等々があることが分かる。興味深いのが(6)のケースで、早魃の折にヌシの力を利用して雨を降らせるのだ。埼玉県鶴ヶ島市の脚折雨乞もその一つ。住民たちは池のヌシの大蛇に雨を降らせてもらっていたが、ある時、大蛇が別の池に移り（ヌシが引っ越す話は例が多い）雨が降らなくなってしまった。そこで人々がその池に赴いて水を持ち帰り、雨乞いをするると雨が降ったという。人にとってヌシは、厄介でありながらも頼もしい隣人なのである。



鶴ヶ島市の脚折雨乞 (写真提供：小川直之名誉教授)

る年を経て霊力を持った生き物が棲むという言い伝えがある。ヌシ化する動物で最も多いのが蛇。日本人が蛇を神聖視していた証であろう。ヌシは自身のテリトリーに侵入した者の命を容易に奪う。それも侵入者個人の命だけでは済まず、一族郎党を根絶やしにする場合や、一村全てを壊滅させる場合すらある。だが、強大な力を持つヌシもテリトリーを離れて人に害をなすことはない。棲み分けが共存の鍵になるが、ヌシにとっても人にとっても水は不可欠なものであるため、対立は避け難い。8世紀初頭の「常陸国風土記」には水田開発と堤防建設の際に二度にわたって人と夜刀神（角のある蛇の姿をしている）が衝突した話があり、ここにヌシ伝承のエッセンスがある。各地の伝承を見ていくと、ヌシへの対処法には、(1)退治する、(2)追放する、(3)封じ込める、(4)祀り上げる、(5)契約を交わす、(6)ヌシをヌシのまま利用する……等々があることが分かる。興味深いのが(6)のケースで、早魃の折にヌシの力を利用して雨を降らせるのだ。埼玉県鶴ヶ島市の脚折雨乞もその一つ。住民たちは池のヌシの大蛇に雨を降らせてもらっていたが、ある時、大蛇が別の池に移り（ヌシが引っ越す話は例が多い）雨が降らなくなってしまった。そこで人々がその池に赴いて水を持ち帰り、雨乞いをするると雨が降ったという。人にとってヌシは、厄介でありながらも頼もしい隣人なのである。



## 大塚製薬株式会社と 包括連携協定を締結

国学院大学（学長：針本正行＝写真右）と大塚製薬株式会社（首都圏第一支店支店長：伊藤徹也＝同左）は昨年12月13日、教育・研究等の分野において相互に協力し、社会の健康増進に寄与することを目的とした包括的な連携に関する協定を締結した。

今後は、さまざまな分野で協力・連携を進める予定。



## 司法試験・公務員試験合格者等から ノウハウ学ぶ「合格者と語る会」

全学部の学生を対象とした法学部主催の「合格者と語る会」が昨年12月11日に渋谷キャンパスで開催された。公務員試験、法科大学院入試、司法試験に合格した法学部の4年生や卒業生ら8人が、貴重な体験談を参加者と共有した。

公務員試験合格者は「苦しい時期もあるかもしれないが、一人で抱え込まず、周りのサポートを頼りながら頑張してほしい」と語り、法科大学院入試の合格者からは、志望校の選び方や使用した教材などが紹介された。また、司法試験合格を果たした卒業生は、在学中から司法試験合格までの勉強法や過ごし方を振り返りながら、後輩たちにアドバイスを送った。

## 日本の笑いを英語で実演「英語落語セミナー」

昨年12月20日に文化発信型英語力開発活動「鹿鳴家英楽の英語落語セミナー」が渋谷キャンパスで開催された。本セミナーは、文学部外国語文化学科が企画・主催し毎年開催しているもので、今回も昨年に引き続き、鹿鳴家英楽師匠＝写真＝が講師を務めた。

英楽師匠は途中、解説を交えながら「天狗裁き」と「長短」の二席を披露。分かりやすい英語で、しぐさや声色を巧みに操って演じ、会場は笑い声に包まれた。セミナー後半では、参加した学生や教員らが実際に高座に上がり実践する場面もあり、参加者たちは英語落語の魅力をかみしめていた。



## 武岡毅選手 柔道グランドスラム東京 66kg級連覇

昨年12月7日、東京体育館で開催された柔道のグランドスラム東京2024男子66kg級において、武岡毅選手（令4卒・130期日文、パーク24）と藤阪泰恒選手（平31卒・127期健体、パーク24）の2人の院友（卒業生）が決勝戦で対決。武岡選手が小外掛けで一本勝ちし、グランドスラムパリ2024に続きグランドスラム連覇となった。

## 久我山中学高等学校保護者対象 大学見学会を開催

昨年12月4日、国学院大学久我山中学高等学校の生徒の保護者を対象とした「国学院大学見学会」が開催され、保護者と教職員ら約100人が渋谷・たまプラーザキャンパスに來校した。

午前中には、たまプラーザキャンパスでキャンパスツアーが行われ、各学部の特徴的な教室や施設を見学。午後は渋谷キャンパスへ移動し、矢部健太郎文学部長（教授）が「国学院大学の特徴」と題し、大学の歴史や学問的な背景について講演した。その後、学生アドバイザーの案内でキャンパスツアーを実施。保護者らは有栖川宮記念ホールや学術メディアセンターなどを見学し、学生たちとコミュニケーションを取りながら交流した。

## 令和6年度 国際研究フォーラム開催 変容する伝統宗教文化を多面的に議論



国学院大学研究開発推進機構日本文化研究所は昨年12月15日、「つむがれる宗教文化―生み出されるカタリとカタチ」と題した令和6年度の国際研究フォーラムを、渋谷キャンパスで開催した。伝統宗教文化が時代とともに

に変化しながら現代に つむがれてきた現状を、どのような「言葉（カタリ）」と「物（カタチ）」で表現しているかについて、同研究所の星野靖二・研究開発推進機構教授の司会で多面的に議論が交わされた。

最初に、東北大学のオリオン・クラウタウ准教授が「和国教主とその教訓・聖徳太子と憲法の近代」と題して報告。聖徳太子が作成した憲法十七条について、明治期の「国体」という統治思想の觀念から戦後の民主主義の基本へと、解釈が変遷していった経緯を多くの文献を引用し詳細に分析した。

次に和光大学の君島彩子講師が「平成時代の仏像と信仰」に関して、仏像の美術としての側面と信仰の変化について考察。戦前は美術として評価されていた仏像が戦中は「護国」や「鎮護」のシンボルとして制作され、戦後は平和への祈りや戦争死者の慰霊の象徴になったと指摘。さらに高度経済成長期は鉄筋コンクリート製（後に軽量のFRP製も）の巨大仏像が多数建造され、バブル崩壊後はサブカルチャーとしての仏像フィギュアが誕生したと、仏像の「カタチ」の変遷について説明した。

最後に米国の大学で学

## 人間開発学部 子ども支援学科

## 現職保育者が未来の保育者に語る「交流会」と 保育者間の交流を深める「ホームカミングデー」を開催



現職保育者として幼稚園・保育園に勤める人間開発学部子ども支援学科の卒業生（院友）と、保育者を志望する同学科の学生が交流する「現職保育者院友と学生との交流会」および、現職保育者の院友に継続的な学びの機会を提供し、保育者同士の横のつながりを構築すること

を目的とした「現職保育者院友対象ホームカミングデー」が、昨年12月14日にたまプラーザキャンパスで開催された。これらは、文部科学省の委託事業「大学等を通じたキャリア形成支援による幼児教育の『職』の魅力向上・発信事業（『職』の魅力向上と人材確保の好循環を生み出すモデル創出事業）」の一環として、保育職を目指す学生に保育職の魅力を伝え、就業観を育むことを目的として昨年度から実施されている。

「現職保育者院友と学生との交流会」は、前半に塩谷香・同学科教授のファシリテーションのもと、3人の現職保育者が仕事のやりがいや魅力、勤務経験を語って得た学びなどについてパネルディスカッション形式で語った。後半は、就職活動を控えた3年生が少人数グループに分かれ、それぞれのグループに現職保育者が入り、仕事への心構えや具体的なアドバイスなど、活発な情報交換が行われた。写真上。参加した学生からは「先輩方のように、子どもたちの成長を近くで見守り、喜びを分かち合えるすてきな先生になりたい」といった声が聞かれた。



「現職保育者院友対象ホームカミングデー」では、前半に昼食を交えた懇談会が行われ、現職保育者と同学科の教員らが「保育職を続けるために必要な条件」などについて意見交換を行った。後半は、現職保育者を対象に、塩谷教授により「子どもの最善の利益のための保育と保護者支援」というテーマで研修が行われた。同下。参加者からは「大学で学んだことは日々の業務で忘れがちだったが、研修を通じて改めて子どもたちのために学び直したいと思えた」「同じ現職保育者と悩みを共有できてよかった」といった感想が寄せられた。



## 国学研究者としての道を切り拓いた出会い



今でこそ国文学と神道史を専門としていますが、初めから定まっていたわけではありません。そもそもかつて、本学に学部生として入学したのは、文学部の史学科でした。それも歴史が好き、というぐらいのもの。何かを極めようとしていたわけではありません。大学1年生の時、国文学の始祖とされる荷田春満が祀られている東丸神社に参拝した時、特に深い知識は持ち合わせておらず、まさか後に研究することになるとは思いもよらなかったということは、以前も振り返ってみれば一つの大きな出会いだったのが、当時の副題が象徴的ではあります。が、国文学の草創期のお話を、

丁寧に語っていらしたのです。私が大学卒業後、一般企業に3年ほど勤める中で、やはり学問の道に進みたいと考えた時に思い出したのが、その上田先生の授業でした。一念発起して当時の本学の、文学部神道学科第二部、いわゆる夜間部に文学士入学。やがて修士論文を執筆するに至るまで、上田先生にご指導いただきました。前段でお話したような、国文学と神道史という視座において、国文学草創期の荷田春満を研究するようになることでした。その後、博士課程後期以降は阪本是丸先生にお世話になりました。とはいえ、まだ私自身もフラフラとしていて、道が定まってもいませんでした。そんな折、平成14(2002)年に創立120周年を迎えることを見据えての本学の記念事業として、『新編 荷田春満全集』の編集・刊行のプロジェクトが立ち上げられ、偶然にも荷田春満について多少なりとも知見を持ち合わせていた私に参加のお声がけをいただいたことは、僥倖そのものでした。

## 「神道の復古」という視点から見えてくるもの

荷田春満は、国学四大人の一人とされながらも研究が進んでこなかったというところは触れてきましたが、実はその理由に、残された、また研究のために整備されているテキストがあまりに少ない、ということがありました。古い全集のみ、という状況。私はテキストのみならず、社会的・歴史的なコンテクストを含ませる考えの立場の人間ではあります。それにしても手掛かりが少なすぎた。そんな折、新たに全集を編むプロセスをお手伝いする機会をいただけた、というわけなのです。ここまでのエピソードに象徴的なように、私は決して主観的に生きてきた人間ではないのですが、おかげさまで現在まで研究を続けることができています。近年特に関心を抱いているのが、「神道の復古」というテーマです。

通説として、近代以降の神道史研究が回顧的に歴史を捉え返していく中で、近代に連なる神道のありようとして、江戸中期以降の国学者たちが形成した「復古神道」が発見されていきました。しかし、そんな単純な歴史

天文学といった洋学を広く受容していった自然科学者としての顔があり、また門人たちが手がけたという点で、農学者の人としての顔もある。本居宣長にも「真暦考」という著作がありますが、天体観測に基づいた知識抜きに暦を考えることはできません。このように、現在では学際的にも言われるような学問の中に見いだすことができる。令和2(2020)年に本学の日本文化研究所「神道・国文学研究部門」が開催した国際研究フォーラム「21世紀における国文学研究の新展開 国際的・学際的な研究発信の可能性を探る」をはじめとして、これから新たな国文学のさらなる展開、その前途が開かれていると私は確信しています。

## 国学は「終わった」学問ではない

「二足のわらじではないですが、二本の柱を立てて、同時に研究を進めています。一つは、国文学という学問を、近世中期の発生以降、現代に至るまで通時的に捉えていく、というところ。もう一つは、近世から近代へと流れしていく神道史を考察すること。この双方が、時に密接に絡み合いながら、私の研究を構成しています。特に国文学に関しては、終わった学問ではない、今でも、あるし、まだ多くの可能性を秘めているのだ、というスタンスをとっています。この見解について、徐々にお話ししてみたいと思います。

国学院大学日本文化研究所編『歴史で読む国文学』(2022年、ベリカン社)の冒頭で私は、「国文学とは近世中期に発生した、後世の文献や外国の思想に依拠することなく、日本古典の文献実証を行い、それを通じて古代の文化を解明しようとする新たな研究方法による学問」だと書き留めた。この特集をご覧ください。いる方の中でも、国学四大人(荷田春満・賀茂真淵・本居宣長・平田篤胤)あるいは国学三哲(契沖・賀茂真淵・本居宣長)に関して、ご関心を寄せておられる方は多いことと思います。もちろんこうした重要な国学者の思想について学ぶことは大きな意義があるのですが、しかし『歴史

でも、それら国文学全体の関係性や歴史といったこととなると、おぼつかないところがあるのです。現代における最新の研究成果も含めて、国文学を通史的に捉えるという視点を、学生はもちろん、広く社会に届けたい。それが『歴史で読む国文学』の一つの狙いでした。これを私自身の研究に引き付けつつ、少し別の角度からお話ししてみよう。私が修士から博士課程までの論文や学会発表などをもとにしたながら出版したのは、荷田春満の国文学と神道史(2005年、弘文堂)という本でした。荷田春満は先ほど触れた「国学四大人」の始祖と位置付けられてきた人ですが、京都の稲荷社(現在の伏見稲荷大社)の神職の家に生まれ、やがて『日本書紀』の注釈書などを物としていくようになったその歩み、学問としての実態は、実はあまり詳らかにされていないからです。

### 研究者に聞く

# 「総合知」としての国文学の全貌——「人文知」を超えて

#### まつもと・ひさし

博士(神道学)。専門は近世・近代の神道史・国文学研究。主な著書に、国学院大学日本文化研究所編『歴史で読む国文学』(2022年、ベリカン社)、神社本庁監修『神話のおへそ「古語拾遺」編』(2015年、扶桑社)など。



## 神道史と国文学の交錯点を探る

私の書籍は、荷田春満による国文学の言説を、神道史とともに考えてみよう、という意図でした。実際、17世紀の後半に初期の神仏分離の動きが進む中で、稲荷社家も自らの由緒から仏教を切り離していく必要があり、荷田春満はそうした神道史の流れの中で学問形成をしていた、と見ることであります。彼は『日本書紀』神代巻に関する注釈や門人に対する講義を行っていたわけですが、私がかつて前掲書所収の論文「荷田春満の神代巻解釈の形成過程 稲荷社祭神説と関連して」の中で、「神代巻解釈中の各祭神を検討することから春満の神道思想と稲荷祭神説が密接に関連していることが明らかになったのではないだろうか」と述べたのは、国文学と神道史を実証的に結び付け

ていこうとした研究方針によるところがあるわけですが、実は国文学の研究というものには、各学者の思想的な主張その内容ばかりを追うことになりがちである、という課題を抱えてきたと、私は認識しています。いえ、決してそうした思想面での研究を軽視してよい、と言わなければならず、その重要性を踏まえた上で言うわけですが、テキストに向き合うのみ、場合によっては部分と部分を切り取ってつなぎ合わせているだけでは、その背後にあるコンテクスト、すなわち社会的・歴史的な背景を取りこぼしてしまうのではないかと、という懸念を覚えるのです。

例えば荷田春満にしても、なぜこのような国文学の思想家が生まれたのかということ、彼が稲荷社の神職の家に生まれていてということ、そして稲荷社を巡る当時の状況を踏まえない限り、分らないのではないだろうか。既に確定しているテキストをもとにするだけではなく、きちんと、そして現代の最新の知見も踏まえながら幾度も、歴史の流れの中に位置付け直していく。それが、国文学が「終わった」学問ではない、と私が述べているところ、一つの意味合いになります。さて、国文学は総合知であるということもお伝えしたいのですが、そのためにも少し私自身の歩みについてもご紹介できればと思います。当初は史学を学び、一般就職もした後に学問の道に入るとして、お話しできることがあるかもしれません。



# 経済学部生が学内外で課題解決策を提案

## ◆学生小論文アワード論文部門 優秀賞

(一社) ICTマネジメント研究会が主催する学生小論文アワードのオンライン授賞式が昨年8月5日に開催され、根岸毅宏・経済学部教授のゼミ生、安藤怜愛さん(経3)、市野愛実さん(経営3)、佐竹賢人さん(経営3)の3人のグループ=写真右上(左から)=が論文部門の優秀賞を受賞した。

このコンテストは若手学生研究者を支援することを目的に毎年開催されているもので、今回は「社会問題の解決とICTおよび生成AIの展望」を課題テーマとして実施された。

根岸ゼミ生のチームは「生成AIを用いて行う認知症対策の提案」という論文を提出。論文では、日本の認知症患者に対して生成AIとスマートスピーカーを活用した早期段階からの予防策について提案した。

## ◆「基礎演習B」プレゼン決勝大会

経済学部1年次の選択必修科目「基礎演習B」のプレゼンテーション決勝大会が昨年12月11日に渋谷キャンパスで開催された。「基礎演習B」では例年、学外から提示された課題についてチームで解決策を立案する課題解決型学習に取り組んでいる。

今年度は三井不動産株式会社から「渋谷の街をより魅力的にするために、MIYASHITA PARKができることを提案せよ」という課題が出され、127チームが後期授業開始から約2カ月を通じて課題解決策を練り上げた。決勝大会に進出した6チームの中から優勝に輝いたのは、MIYASHITA PARKを災害時の拠点として活用することを提案したチーム=同右下(前列)。観光客なども対象にゲーム感覚で行える防災訓練の実施策など、具体的かつ実用的な防災プランを提案した。



## インフォダイジェスト

…在学生 …保証人 …卒業生 …一般 …受験生  
 内容 日にち 時間 場所 対象 定員 料金 申し込み 問い合わせ

## 大学からのお知らせ

### 令和7年度 学年暦

令和7年度の学部生の学年暦が決定しました。詳細は本学HP(二次元コード)からご確認ください。

問教務課 (☎03・5466・0135)



### 2・3月中の事務室開室および証明書発行機稼働日程

2・3月中の事務室の開室と証明書自動発行機の稼働日時は、渋谷・たまプラーザキャンパスとも本学HPを参照してください。

### 大学院学位記授与式

大学院の第73回学位記授与式を以下の通り執り行います。

日3月22日(土)11時～

場渋谷キャンパス 常磐松ホール

問大学院事務課 (☎03・5466・0142)

## キャリアサポート

※詳細確認・申し込みはK-SMAPYⅡから行ってください

### 学内合同企業説明会(WEB・対面)

優良企業と出会い、応募につなげよう！  
 本学学生を採用する意欲が高い企業・団体をお招きし、採用担当者からじかに話を伺うことができる合同説明会です。一日で多くの企業・団体と出会うことができます。この機会に業界・企業・職種研究を進めるとともに、自分にあったオンラインワン企業を探しましょう。

日WEB=1月30日(木)、2月26日(木)、27日(木)

対面=2月6日(木)、7日(金)

時10時～16時20分の間で実施

※日程・実施形態により異なります

対学部3年生・修士1年生

※1月30日、2月6、7日は学部2年生も参加可

場対面=渋谷キャンパス 120周年記念1号館

### 模擬面接指導会(対面)

模擬面接で選考に向けて最終チェックをしよう！

面接力の強化と最終チェックを目的に行います。採用選考の面接では、フィードバックがないため、どこが良くてどこが悪かったのか分からず、同じ過ちを繰り返してしまう危険性があります。採用試験解禁前に自分の面接内容について、実際の企業の採用担当者から実践的なアドバイスをもらえる貴重な機会ですので、本番対策として積極的に参加してください。

日2月18日(火)、19日(水)

時12時30分～17時

対学部3年生・修士1年生

場渋谷キャンパス 120周年記念2号館、3号館

ある中学校の先生のうしろ話です。  
 A子は、おとなしいと言えど、聞きかたがよいが、実際は覇気が無く、存在感の乏しい生徒でした。成績も芳しくない。  
 そのA子が変わりました。中学校の文化発表会がA子を変えました。  
 いつも一人で、音楽の世界に入っていたA子が、クラスのコーラスの指揮棒を振ることになったのです。音楽好きを知っていたクラスの誰も、異議を唱えませんでした。発表会までの1カ月、彼女は一生懸命、指揮棒を振りました。彼女が変

今年も、国学院大学の箱根駅伝でのつなぎの激走に元気をもらって正月を迎えました。その激走の根底には、前田康弘監督の選手たちの「人間力」への信頼感があるのです。では、ここで「人間力」とは何でしょうか。それは、他から認められたい、自分の夢をかなえたいなど、自己実現への気持ちを持ちながら、人々とかわり、自己を生かして成長しようとするたくましく生きる力です。

## 「人間開発」と「修理固成」の育て



名誉教授 新富 康央

しんとみ・やすひさ  
 学校法人国学院大学特別参事。人間開発学部初代学部長、専門は教育社会学、人間発達学。新しい時代の子育て論には定評。

わっていく姿に、クラスのみならず応援しました。このクラスは全校2位の栄冠を勝ち取りました。しかし、勝ち得たものは、準優勝の賞状だけではありません。彼らは「人間力」の素晴らしさを感じ取ったのです。文化発表会でのコンダクターという仕事が、彼女に「期待される厳しさ」と「自分への自信」を与えたのです。このことをきっかけにして、A子は何事にも、より積極的にいかれるようになりました。また、勉学にも励むようになりました。

この「人間力」育成の過程こそ、「人間開発」です。「(自ら)なる・なろうとする」人育て、すなわち国学院大学の言う「修理固成」の人育てなのです。



人々の潜んでいる能力や才能は、弾け、拓き、広がるものなのです。従って、人の持つ能力や才能は可能な限り引き出され、伸ばされなければなりません。そういう願いを込めて、「修理固成」の人育てを目指す本学に、教員養成の「人間開発学部」も設置されました。

能力や才能が有るとか無いとか言うとき、それは結果として表面に表れた現存の能力や才能を言っているのではないのでしょうか。今ある才能の有無だけを問うのではなく、その人の中に潜んでいる才能や能力の全てを引き出し、広げ、深めてやる必要があるのです。若者が巣立っていく場所、誰も、活かし、活かされるべき対象として、精いっぱい「人間開発」されなければならないのです。

近くて遠い？ 遠くて近い？ そんな親の気持ちや子どもの気持ちを一緒に考えませんか？ 新富名誉教授による子育てエッセーを隔月でお届けしています。感想や新富名誉教授への質問、講演依頼などございましたら広報課までお寄せください。



箱根駅伝往路選手コメント

# 「たすきがつないだ仲間との絆と勝利への意志」



平林主将 (左)・野中選手



山本選手



青木選手



高山選手

## 1区 野中恒亨 (健体2) | 区間6位 | 1時間2分47秒

1年間の集大成の場だと思って臨んだ初めての箱根駅伝でしたが、緊張せず楽しめました。ただ、青学や駒沢と差をつけて2区につなぐという目標は達成できず、自分の弱さを痛感しました。この経験を糧に、来年こそはチームに貢献できる走りができるよう努力します。

## 2区 平林清澄 (経営4) | 区間8位 | 1時間6分38秒

私にとっては人生そのものといっても過言ではない箱根駅伝。仲間の走りにとても助けられました。ラストイヤーの箱根駅伝は個人的には悔しい結果となりましたが、この悔しさを次の舞台であるマラソ

ンに生かして、個人として更なる成長を目指していきたいです。

## 3区 山本歩夢 (健体4) | 区間5位 | 1時間1分54秒

区間賞を目標に挑んだ箱根駅伝でしたが、力不足を痛感しました。それでも、今の自分の力を100%出し切れたので悔いはありません。憧れの舞台は、自分が輝ける場所へと変わりました。この経験を糧に練習の質と量を高め、世界を見据えて努力を続けます。

## 4区 青木瑠都 (健体3) | 区間2位 | 1時間1分9秒

区間賞を取り優勝に貢献することを目標に臨みましたが、個人としてもチームとしても目標達成はか

ないませんでした。それでも全員が力を出し切り、胸を張れるレースができました。この経験を糧に目標達成へのアプローチを見直し、人間として成長していきたいです。

## 5区 高山豪起 (法3) | 区間14位 | 1時間12分58秒

自信はあったのですが箱根の山は想像以上に厳しくもっと強くないといけないと痛感しました。かなりきついレースとなりましたが得たものは大きかったです。落ち込んでばかりもいられないので切り替えて、次に向け練習に取り組み成長していきたいと思います。

写真・月刊陸上競技

## モーターボート水上スキー部

## インカレ大会

# 男子ジャンプ団体優勝、総合3位

全日本学生水上スキー連盟と(特非)日本水上スキー・ウエイクボード連盟が主催する「第69回桂宮杯全日本学生水上スキー選手権大会」が昨年9月5日から8日にかけて大潟村水上スキー場(秋田県大潟村)で開催され、国学院大学モーターボート水上スキー部は男子ジャンプ団体で優勝、男子総合で3位の成績を収めた。本大会には全国から10大学が参加。ジャンプ、トリック、スラロームの3競技が男女別に行われ、団体は各競技の選手の合計点で、総合は全

競技の総合計点で順位が決定する。

ジャンプ競技には松山晴信選手(史4)、鈴木優太朗選手(健体4)、阿部柊太郎選手(外文3)、伊東武流選手(経営3)の4選手が出場。松山選手が41.3mの記録で個人優勝、鈴木選手も39.8mで個人3位に入り、男子ジャンプチームは見事優勝を果たした。トリック競技で4位、スラローム競技で5位と苦戦したものの、ジャンプ競技の好成績が総合順位を押し上げ、総合3位となった。



優勝を飾った男子ジャンプチーム。左から阿部、松山、鈴木、伊東選手(同部提供)

## キックボクシング部



前列左から各階級のチャンピオン決定戦で王者に輝いた小林、木曾、喜多、貴田選手(同部提供)

# 全日本学生キックボクシング選手権大会連覇

昨年11月16日に後樂園ホール(東京都文京区)で「第93回全日本学生キックボクシング選手権大会〜チャンピオントーナメント2024決勝戦」が開催され、国学院大学キックボクシング部は団体戦で2年連続21回目の優勝を果たした。

本大会は全日本学生キックボクシング連盟の主催で行われ、団体戦には10大学が参加。団体戦は3選手の合計ポイントで順位を決定する。また、6階級のチャンピオントーナメント決勝戦も並行して実施され、予選を勝ち抜いた12人の選手が熱戦を繰り広

げた。同部からはミドル級に木曾慎太郎選手(経営3)、ウェルター級に小林耀選手(経2)、フライ級に貴田皓太選手(法4)、フェザー級に喜多洸介選手(経3)が出場。4選手とも各階級のチャンピオン決定戦で勝利を収め、見事に王者の座に輝いた。さらに、個人戦の最優秀選手賞は喜多選手が獲得し、ベストバウト賞には日本大学の選手と対戦した小林選手の試合が選ばれるなど、同部の選手たちは大会を通じて華々しい活躍を見せた。

## ドリル競技部 SEALS

## 第24回全日本チアダンス選手権大会

# 「大学生編成Pom部門」連覇

(一社)日本チアダンス協会が主催するチアダンスの日本一を決める大会「ALL JAPAN CHEER DANCE CHAMPIONSHIP 2024〜第24回全日本チアダンス選手権大会 決勝大会」が昨年11月24日に東京体育館(渋谷区)で開催された。国学院大学ドリル競技部SEALSは、「大学生編成Pom部門 Small・Medium」において2年連続の1位となっ

た。同大会は地区予選を勝ち抜いたハイレベルなチームが集結する全国大会。Pom部門は、演技の大部分でメンバーがポンポンを使用。ポンポンによる視覚的効果を取り入れ、正確にシンクロしたモーションでチームが「一つ」に見えることが求められる。同部は躍動感あふれる演技で並み居る強豪を抑え、2連覇を成し遂げた。



2年連続の1位となったドリル競技部SEALS(同部提供)



## 陸上競技部

# 箱根駅伝 総合3位 「全員駅伝」で過去最高順位タイ

第101回東京箱根間往復駅伝競走（箱根駅伝）が1月2、3日に東京・大手町から神奈川・芦ノ湖畔をつなぐ往復全10区間217.1kmで開催され、国学院大学陸上競技部は過去最高順位タイの総合3位に輝いた。

1区を担った野中恒亨選手（健体2）は、スタート直後から飛び出した中央大学を追う2位集団で積極的な走りを見せ、2位の駒沢大学と8秒差の6位で2区の平林清澄主将（経営4）へたすきをつないだ。3年連続で各大学のエースがしのぎを削る2区を任された平林主将は、3選手が区間記録を上回るハイペースのレースとなる中、懸命に走り抜け4年間苦楽をともにした同級生で副主将の山本歩夢選手（健体4）に8位でたすきを託した。

3区の山本選手は力強い走りで、東京国際大学、帝京大学を抜き6位に浮上。4区の青木瑠郁選手（健体3）は早々に早稲田大学を追い抜き4位の駒沢大学を追いかける。そのまま区間2位の好タイムでたすきをリレーした。5区の高山豪起選手（法3）は初めて箱根の山登りに挑む。順位は一つ落としたものの、粘り強い走りで行路を5時間25分26秒の6位でゴールした。

6区の嘉数純平選手（健体3）はハイペースで進む山下りの6区を7位でたすきをつなぐ。7区の辻原輝選手（史2）は自身の地元・二宮町を区間2位タイのペースで駆け抜けた。先行する城西大学を追い抜き、

佐藤快成選手（健体4）に6位でたすきを渡した。8区の佐藤選手は快調な走り順位を一つ上げる。さらに戸塚中継所前で4位の創価大学と競り合い同タイムの僅差5位で9区の上原琉翔選手（健体3）へつないだ。

9区の上原選手は序盤で創価大学を振り切り、先行する早稲田大学を追いかける。9.6km付近で追い抜き3位に浮上するも、抜きつ抜かれつのデッドヒートを繰り広げ、最後は早稲田大学と並走し、1秒差の4位で最終10区の吉田蔵之介選手（経2＝写真）にたすきを託した。アンカーの吉田選手は早稲田大学の後ろにぴったり張り付き、虎視眈々とチャンスをうかがう。17.4km付近で前に飛び出し、そのまま9人がつないできたたすきを胸に3位で大手町のゴールに飛び込んだ。目標の総合優勝は成し遂げられなかったものの、同部史上最速タイムの10時間50分47秒で総合3位となった。

第101回 箱根駅伝総合成績

順位	大学名	総合記録
1	青山学院大学	10:41:19
2	駒沢大学	10:44:07
3	国学院大学	10:50:47
4	早稲田大学	10:50:57
5	中央大学	10:52:49
6	城西大学	10:53:09
7	創価大学	10:53:35
8	東京国際大学	10:54:55
9	東洋大学	10:54:56
10	帝京大学	10:54:58

以上、シード獲得（以下略）

## 前田康弘監督コメント

平林たちが素晴らしいチームを作ってくれた。本気で優勝を目指していたため、5年前にはうれしかった3位も、今年は悔しさを感じている。このまま3位では終わらせられないので、OBや応援してくれる人たちの思いをつなげ、優勝という大きな山に来年もう一度チャレンジし、結果で示せるように引き続き頑張っていきたい。

## 復路選手コメント

## 「悔しさを糧に、『歴史を変える挑戦』は続く」



嘉数選手

**6区 嘉数純平** (健体3) | 区間**16**位 | 59分41秒

高校時代から憧れ、走りたかった箱根駅伝でレースの流れを作ること目標に挑みました。結果としてはふがいない走りとなり、チーム全員に助けられた形になってしまいました。この悔しさを胸に、来年こそ総合優勝を果たすために泥臭く練習を重ねていきたいと思います。

**7区 辻原輝** (史2) | 区間**2**位 | 1時間2分21秒

区間賞と区間新を目標に挑みましたが、達成できず悔しさが残ります。それでも力を出し切り、成長の糧となる経験ができました。箱根駅伝は、コース上で育った自分にとって陸上競技の原点であり夢の



辻原選手

**8区 佐藤快成** (健体4) | 区間**7**位 | 1時間4分46秒

区間賞を目標に挑みましたが、ポイントにしていた遊行寺付近で失速してしまい悔しさが残ります。それでも箱根駅伝は、これまでの感謝を伝える特別な場所。この経験を胸に、8区のコースのように人生の後半に向けてペースメーカーを大切にしながら歩んでいきたいと思っています。

**9区 上原琉翔** (健体3) | 区間**6**位 | 1時間9分8秒

区間賞と区間新を目指して挑み、前半は狙い通りのペースで走れましたが、後半に失速し力不足を痛



佐藤選手



上原選手



吉田選手

感しました。それでも、もう一度優勝を目標に挑む決意を固めました。今年達成できなかった優勝を来年必ず勝ち取るため、「強いチームづくり」に全力を尽くします。

**10区 吉田蔵之介** (経2) | 区間**3**位 | 1時間9分25秒

区間新・区間賞、そして総合優勝を目標に1年間取り組みましたが、悔しい結果となりました。それでも総合3位を獲得する形で、お世話になった4年生を送り出せて良かったです。箱根駅伝は「思いをつなぐ」特別な大会。この悔しさを胸に、来年こそ総合優勝を達成します。

往路選手コメントはⅡ面

写真・月刊陸上競技